

令和2年度第1回北杜市ふるさと創生会議（書面開催） 会議録

1. 会議名 令和2年度第1回北杜市ふるさと創生会議

2. 開催日時 令和2年8月24日（月）から 令和2年9月4日（金）

3. 開催場所 書面開催

4. 出席者（委員及び事務局等）

（1）北杜市ふるさと創生会議委員

藤原真史、藤原真理、小澤建二、小林喜文、小川昭二、三井麻里子、羽根田篤、小山愛実理、浅川幸彦、利根川昇、清水正樹、浅川幹、三井一公、小林昭治、大塚広夫、荻原久、原和之、依田浩二、田中勝、西巻真人

（2）北杜市

市長、副市長、教育長、政策秘書部長、企画部長、総務部長、健幸市民部長、福祉部長、森林環境部長、産業観光部長、建設部長、議会事務局長、教育部長、監査委員事務局長、農業委員会事務局長、会計管理者、明野総合支所長、須玉総合支所長、高根総合支所長、長坂総合支所長、大泉総合支所長、小淵沢総合支所長、白州総合支所長、武川総合支所長、上下水道局長、秘書広報課長、財政課長、総務課長、政策推進課長、政策推進課計画推進担当

5. 議題

（1）北杜市総合戦略に係る事業の令和元年度（最終年度）の達成状況について

（2）北杜市総合戦略に係る事業の進捗状況（平成27年度～令和元年度）について

（3）北杜市総合戦略に係る事業における事業別実績一覧について

6. 公開・非公開の別 非公開

7. 非公開の理由

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず書面開催とし、北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条第1項第2号の規定により、非公開としました。

8. 審議内容（ふるさと創生会議委員からの主な意見）

「総合戦略」全般

- ・総合戦略全体の達成状況から見ると、この戦略による取り組みの結果、人口減少に一定の歯止めをかけたことは評価できる。

- ・目標を達成できない事業が見受けられますが、継続して取り組むことが大事である。コロナ禍により、大きく影響を受ける事業もあると思うが、粘り強く取り組んでほしい。

「若者応援」

- ・重点プロジェクトは3つとも未達成であるが、子育ての各種事業に手厚く取り組んでおり、評価できる。市民の中には内容を知らない人もいるため、取組内容をもっと広める必要がある。
- ・子育て支援住宅入居者の満足度は目標未達成であるが、入居者の「定住計画書」に沿った定期的な個別サポート等により、最終年度までの10世帯に続き退去後の確実な定住に結びつける取組の徹底を期待する。
- ・子育て支援住宅の入居者への支援体制充実は、10件の退去者が北杜市への定住につながっていることは成果。補助金の整備とともに、育児世代の憩いの場や活動の場（公園など）の環境も必要。

「住まいづくり」

- ・移住相談窓口の設置や空き家バンクの情報提供の効果があつたこと、子育て支援住宅の退去者全員が市内定住したことは良い成果である。

「雇用創出」

- ・市の特色を生かした農業関係の企業誘致や雇用の創出が図られ、取組が評価できる。
- ・合同就職ガイダンスの開催は、現在、新型コロナウイルスの影響で説明会やインターンシップのオンライン化が加速しているが、対面での開催を望む就活生も少なくないため、今後も対面での開催を続け、就活生の関心を引くことが大切である。

「交流・観光」

- ・様々な工夫をしているが、大変厳しい達成状況であり、大きな課題であると感じる。
- ・道の駅環境の整備、情報発信は、道の駅はくしゅうを訪れた際に、入り口近くに天然水が流れ、それを汲んでいる人々で賑わっているのが印象的であった。道の駅は気軽に立ち寄ることができ、かつ、地元のPRができる施設であるので、今後も利便性の向上やPR活動は必須である。

「生活環境づくり」

- ・地域公共交通が刷新されたので、今後見直しを行い、利用者の利便性をより高めていくことが必要である。また、市内には狭い道路や橋などがたくさんあり、交通インフラの整備充実が急務である。
- ・地域公共交通の再構築は、市民に加え、市外からの来訪者にもより市民バスを利用していただくために、市内各駅でのバスPRや案内を増やしても良いのではないかな。
- ・鉄道利用通学者への支援は、進学による市外への転出を防ぐことができれば、地元での就職という選択肢が大きくなると思うので、今後も更なる本制度の利用者の増加に努めるべきである。

以上、令和2年度第1回北杜市ふるさと創生会議の内容を記載し、その内容に相違がないことを証するため、ここに署名する。

署名委員 _____

署名委員 _____